

あみかくるさはの河瀬に立つ千鳥

又いつ方へ鳴き渡るらむ

吉城川附高橋

一ニ宜寸・宜木ニ作ル。源ヲ春日山ヨリ水谷社後ヲ遠リ東大寺南大門ノ前ヲ流レ氷室社ノ北ヲ過ギ、法連ノ東ニ至リ佐保川ニ入ル。但シ舊跡幽考ニ「宜木川・東大寺南大門の南のほとりにはしをわたせる川あり俗に高橋といふこれなり」ト見ユ、今ノ東大寺南大門前ノ石橋ヲ高橋ト稱スルモ恐ラクハ非ナリ。案ズルニ氷室社記廣大和名誌所引ニ「元明帝遷都于平城時新造構氷室於春日山之北足。水屋氷室是也……爲護神故號吉城川氷室、或云高橋氷室神社、而建保五年遷坐于登小路今社地……」トアリ。之ニ據レバ古ノ吉城川高橋ハ上流水谷川水谷社邊ニ架セル橋梁ニシテ、其ノ地兩岸高ク峙チ水流深ク陥リ高橋ノ名實相合ヘリ。氷室社嘗テ其ノ近傍ニ在リ。故ニ高橋氷室社ト稱ス。事彼ノ社ノ下ニ述ブベシ。南大門前ナル石橋ハ地勢ト共ニ平坦ニシテ高橋ト稱スベキモノニアラズ。

萬葉集

吾妹子に衣春日の宜寸河

よしもあらぬか妹が目を見む

水屋川

吉城川ノ上流水屋社邊ヲ稱ス。下ニ載スル古歌證トスベシ。

卷十二

夫木和歌抄

みつやかは末せきかけて春日野の

野たの早稻はけふぞとるなる

卷二十二

能登川

春日山香山ノ溪澗ヨリ出デ高畑・肘塚ヲ過ギ飯合川ニ入ル。俗ニめうと川ト稱ス。

萬葉集

能登河の水底さへに光るまでに

三笠の山は咲きにけるかも

卷十

飯合川

俗ニいや川舊跡幽考いわる川ト稱ス。飯合ノ音便ナリ。註（今、岩井川ト稱ス。）

萬葉集

山さはの雪はきえぬかありやみつ

飯合川のそへはせくとも

飛鳥川

坊目考ニ「川上突抜町當町之上町之南ニ在築地之内町……當町北側小川俗ニ飛鳥川ト云」ト

見ユ。元興寺古圖ヲ案ズルニ、飛鳥川ハ元興寺境内ヲ流ルル小溝ニシテ其ノ下方即チ小塔院前ヲ鳴川ト稱ス。今、川上・鳴川等ノ町名ハ皆此ノ水流ニ因レル字ナリ。

草根集 註（舊跡幽考ニ出ヅ。）

添上郡